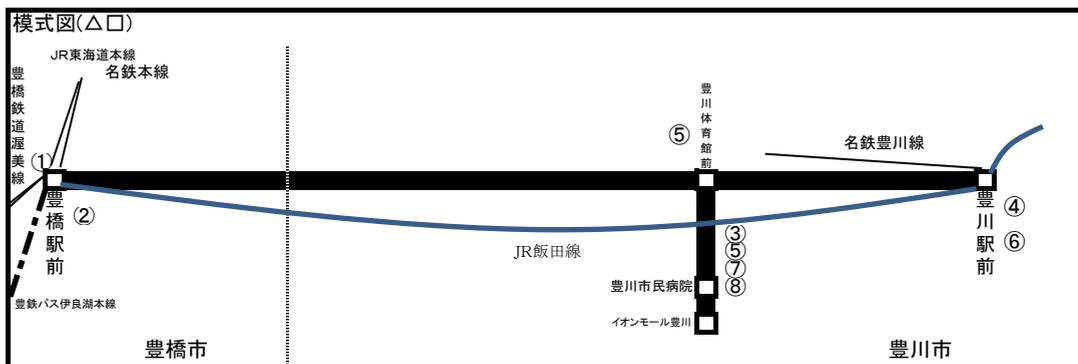


1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
豊川(イオン病院)	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	豊橋駅前～豊川市民病院～イオンモール豊川～豊川駅前	17.1 km	8.2 回	豊橋市 豊川市 0 0
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)
<p>&lt;接続する系統&gt;</p> <p>名古屋鉄道本線・豊川線、JR東海道本線・飯田線、豊橋鉄道渥美線、豊鉄バス(伊良湖本線)</p> <p>&lt;接続される系統&gt;</p> <p>豊鉄バス(豊橋市内路線)、豊橋コミバス①しおかぜバス②かわきたバス、豊川コミバス③ゆうあいの里八幡線④千両三上線⑤小坂井線⑥一宮線⑦音羽線⑧御津線</p>



2. R6年度の運行状況

事業実施の適切性		《参考数値》 主要指標の推移(△)																																					
計画どおり運行されたか(△)	評価																																						
計画どおりか。そうでない場合は理由	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間利用者数【人】</td> <td>118,948</td> <td>114,316</td> <td>107,332</td> <td>103,008</td> <td>88,452</td> </tr> <tr> <td>平均乗車密度(実績)</td> <td>3.0</td> <td>3.0</td> <td>2.7</td> <td>3.2</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">輸送量</td> <td>(計画)</td> <td>46.8</td> <td>45.5</td> <td>39.0</td> <td>31.8</td> <td>21.5</td> </tr> <tr> <td>(実績)</td> <td>39.3</td> <td>38.7</td> <td>34.8</td> <td>33.2</td> <td>28.2</td> </tr> <tr> <td>収支率(実績)</td> <td>53.8%</td> <td>52.7%</td> <td>45.9%</td> <td>50.6%</td> <td>53.6%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	年間利用者数【人】	118,948	114,316	107,332	103,008	88,452	平均乗車密度(実績)	3.0	3.0	2.7	3.2	3.4	輸送量	(計画)	46.8	45.5	39.0	31.8	21.5	(実績)	39.3	38.7	34.8	33.2	28.2	収支率(実績)	53.8%	52.7%	45.9%	50.6%	53.6%
年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																		
年間利用者数【人】	118,948	114,316	107,332	103,008	88,452																																		
平均乗車密度(実績)	3.0	3.0	2.7	3.2	3.4																																		
輸送量	(計画)	46.8	45.5	39.0	31.8	21.5																																	
	(実績)	39.3	38.7	34.8	33.2	28.2																																	
収支率(実績)	53.8%	52.7%	45.9%	50.6%	53.6%																																		

目標・効果達成状況		運営主体の所見、理由分析、認識(△)	
評価	目標の達成状況(△)	市町村の所見、理由分析、認識(□)	
A	目標	74,673	<p>利用者数は前年比85.9%となったが、目標に対しては、118.5%で目標を達成することができた。他系統も含めた豊川線全体では、前年に対して定期は88.6%、定期外は104.7%となり、定期外利用者が増加していることから、大型商業施設などへの買い物利用のお客様に利用して頂いていると考えられる。</p> <p>市町村名： 豊橋市</p> <p>前年から年間利用者数は減少したが、令和5年3月に大型商業施設の開業に伴って路線を延伸した結果、定期外利用者が増加した。今後も沿線市と協力して周知活動を行い、新しい利用者の獲得に努めていく。</p>
	実績	88,452	
	達成率	118.5%	
	要因	定期外利用者の増加	<p>市町村名： 豊川市</p> <p>年間利用者は前年から減少したが、路線全体では令和5年3月に大型商業施設の開業に合わせて路線を延伸したことにより、定期外利用者が増加した。また、収支率が向上した。引き続き沿線市と連携して周知に努め、新規利用者を獲得していく。</p>
運行事業者の所見等(△)		市町村名： 0	市町村名： 0

複数市町村を跨ぐ系統としての役割		住民の利用状況(□)			
指標(市町村を跨いでの利用)	利用状況及び所見(△)	市町村名			
市町村を跨ぐ利用者数(△)	1,965 人/月	豊橋市	豊川市	0	0
全利用者に占める率(△)	27.0 %	主に豊橋市・豊川市への通勤、買い物、通院などの移動手段となっている。			
特記事項	豊橋市と豊川市を跨ぐ利用者と率。推定値。	主として豊橋市・豊川市相互間の通勤・通院・買い物利用など、住民の生活の足として利用されている。			

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(△)	沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)

3. R6年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)	事業評価を踏まえた取組	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)			
A		沿線市の公共交通イベント時に、ICカード導入を見据えた乗り方教室の実施。	市内の公共交通情報を掲載した公共交通マップを作成し、市内主要施設、観光案内所、公共交通イベント等での配布、HP掲載等で周知を行った。	市町村名： 豊橋市	市町村名： 豊川市	市町村名： 0
改善点とした事項(△)	事業者、市、地元自治会等が連携し利用促進に努める。	東三河地域公共交通活性化協議会と連携し、夏休み小学生50円バスと「公共交通をつかったオリジナルツアー募集」などを実施。	市内の公共交通情報を掲載した公共交通マップを作成し、市内主要施設、観光案内所、公共交通イベント等での配布、HP掲載等で周知を行った。	豊鉄バス新豊線・豊川線の時刻表を豊川市バスマップ及びHPに継続掲載したほか、市内の主要施設において豊鉄バス新豊線・豊川線の時刻表を配布した。		
関係者の連携等(△□)						
必要な情報交換を実施。	その他の取組					

4. 今後の課題

課題と認識している事項					
運営主体(△)	沿線市町村(□)				
沿線の地元住民への情報提供を充実させていく必要がある。また、沿線市と協力しコミバス等の乗継案内を充実していく。	市町村名： 豊橋市	市町村名： 豊川市	市町村名： 0	市町村名： 0	市町村名： 0
	公共交通の維持・強化、利便性を向上させ、新たな利用の創出及び定着化を図る必要がある。	利用者数維持・更なる利用者確保のための工夫が必要である。当該路線とコミュニティバスの乗り継ぎの利便性向上や、利用促進の取り組み、周知等が必要である。			
運行事業者(△)					

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組					
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)			
R7年度、R8年度に行う取組	令和6年度末(R7.3)に導入予定の交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る。	市町村名： 豊橋市	市町村名： 豊川市	市町村名： 0	市町村名： 0
		交通系ICカード導入に向けた周知を効果的に行い、利用者の利便向上を図る。MaaS推進によるデジタル環境の充実の取り組みを行う。	交通系ICカード導入前後の周知を徹底し、利用促進を行う。利用者の利便向上を図る。		

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあつては、目標の達成状況に関しての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に記載した補助系統の目標と評価

沿線市町村(□)				
目標	市町村名： 豊橋市	市町村名： 豊川市	市町村名： 0	市町村名： 0
自己評価	目標未記載	目標未記載		
	外出の増加、積極的な利用促進事業の実施により、生活交通確保計画における目標である「収支率1%以上向上」を達成した。今後も運営主体及び関係自治体と連携した沿線施設の紹介や利用促進等を行い、新規の利用者の獲得を図っていく必要がある。	生活交通確保計画における目標である「収支率1%以上向上」を達成した。大型商業施設開業に合わせた令和5年3月の路線延伸により定期外利用者が増加した。今後も運営主体及び沿線市と連携し、新たな客層の掘り起こしにつなげていく。		

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)			
市町村名： 豊橋市	市町村名： 豊川市	市町村名： 0	市町村名： 0
フィーダー系統である豊鉄バス「三本木線」と豊橋市コミュニティバス「しおかぜバス」、「かわきたバス」に豊橋駅で接続している。	イオンモール豊川で豊川市コミュニティバス(ゆうあいの里八幡線、小坂井線、音羽線、御津線)、豊川市民病院で豊川市コミュニティバス(ゆうあいの里八幡線、小坂井線、音羽線、御津線)、豊川体育館前で豊川市コミュニティバス(小坂井線)、豊川駅前豊川市コミュニティバス(千両三上線、一宮線)と接続している。		

通信欄 (この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)
※マクロを用いて集計しますので、セルの結合は絶対に変えないでください